

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700198		
法人名	有限会社 ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホーム すえひろ		
所在地	瀬棚郡今金町字今金358番地の13		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年5月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171700198&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171700198&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 3 月 23 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・市街地のほぼ中央を横断する遊歩道「オランダ通り」に面しているため、緑に囲まれ静かな環境に立地しています。  
 ・私たちは、利用者一人ひとりの生活と人格を尊重し、見守り、支え合いを第一に、できることはしていただき、日々のささやかなゆらぎを大切に、自由に誇りのある暮らしを、みなさまと共に創っていきたく考えています。  
 ・利用者、家族の方と喜怒哀楽を共有し未永く安心していただきます。  
 ・衛生的な環境をつくり、利用者さんが「生」を実感できるように支援します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、運営法人が、みんなが家族として、穏やかな生活を「すえながく」暮らし続けてほしいと、地域や家族の方々から深い理解と支援を頂き、開設して7年が経過しております。ホームで人手が足りない時には、運営本部の代表者始め職員が駆けつけ、病院送迎、買い物、行事等に全面的な協力支援があります。定期的に地域交流会や家族会を催し、ホームの活動報告や研修を行うなど、親睦を図っています。福祉の町づくりを展開している今金町と連携を図りながら、経営理念の一節である「地域の信頼をもとに社会福祉の実現を目指します」を実践し、ケアサービスに努めています。長年、介護の仕事に携わっていた管理者・先輩職員の方々の経験と実績に裏打ちされた言葉や姿勢に、学びを得た職員の向上心は限りなく、日々切磋琢磨している「グループホームすえひろ」です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが目につく正面玄関に掲示している。毎月1回、職員会議の場で理念を復唱している。	昨年、理念の見直しが行われ、職員全員の思いが反映されたケア理念を策定しています。日常業務や会議等で、理念に沿ったケアサービスが提供できているかを確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外での散歩や玄関前のベンチで、地域の方に気軽に声がけやあいさつを交わしている。町内行事へ参加したり、慰問もいただいている。すえひろ夏祭りを開催している。	地域の方々とは、お茶会に招かれたり、園児や中・高校生、教会、老人クラブ、介護実習生、ボランティアによる交流、さらに相互の行事参加、地元商店街での買い物等、馴染みの関係になっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流広場すえひろを開催して地域の方々との交流の場としている。その場で認知症サポート養成講座などを行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のホームの様子を具体的に報告し、メンバーから色々な意見をいただき、職員会議等で話し合いサービスの質の向上を図っている。	会議は、地域住民・利用者・家族・行政の方々をメンバーに、系列の事業所と合同で3回、ホーム独自で3回開催しています。ホームの活動報告、運営推進会議の目的、外部評価結果報告等が協議され、意見や提案を受け止めています。	再度、会議を開催する意義や目的を理解して頂き、メンバー拡大（家族、地域密着型サービスの知見者等）、参加しやすい日時設定、会議の活性化に繋がる議題設定、議事録の整備、さらにメンバーや家族への議事録配布などの取り組みに期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町保健福祉課や社会福祉協議会、地域包括支援センターと日頃から情報交換や課題を共有しており、ホームの様子や運営の実態を伝えながら相談や指導を常に受ける関係づくりを行っている。	行政とは頻繁に行き来する機会があり、ホームの行事には協力を頂くなど、連携は構築されています。情報や意見の交換、ホームの課題に対して、適切な助言を頂き、利用者がその人らしく暮らせる支援に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し身体拘束をしないケアを学び、職員会議等で勉強会を行い全職員で共有して、利用者の安全を確認しながら鍵をかけないケア、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、研修や日常業務で、身体拘束や虐待の具体的な弊害について理解を深めています。玄関の施錠や服薬を含め、身体拘束をしないケアを実践し、人としての尊厳の周知徹底を図っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し虐待防止を学び、職員会議等で勉強会を行い全職員で虐待防止の徹底を共有している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修会等に積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者と管理者が立会い、十分な説明を行うとともに利用者や家族の希望や不安などを共有するようコミュニケーションを図ることを大切にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから不満や苦情等のサインを見逃さないようコミュニケーションを図るよう努めている。苦情・相談ポストを設置している。家族会、運営推進会議での意見交換。訴えに関しては管理職会議、職員会議等で改善するように取り組んでいる。	利用者、家族と信頼関係を築き、話しやすい雰囲気作りに努め、意見や要望を汲み取っています。表出された課題は、改善策を協議し運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを十分にとり、職員から気軽に意見や要望を聞く職場環境づくりをしている。職員会議や管理職会議での提案や意見交換を行っている。	代表者は常にホームを訪れ、管理者と共に職員の全体像把握に努めています。日常業務や会議、職員親睦会等で意見や要望を傾聴し、職場環境の整備を含め、ホームの質向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図りながら実績や勤務状況を把握し、研修も希望を受け入れ、介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得にも積極的である。職員親睦会主催のレク等で職員間のコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に研修に参加できる環境づくりに努め、職員の希望を受け入れ事業所外の研修に積極的に参加させている。職員においても自らの職務年数と技術に応じ、各種資格の取得に努め「働きながら学ぶ」ことに積極的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の介護施設職員で行っている「としべつ道場」へ参加し勉強会や職員間の交流をしている。職員は研修会等で知り合った他のグループホームの職員との交流や相互の情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴等の把握に努め、本人本位の安心を優先するために、本人のペースに合わせたコミュニケーションを図り信頼関係を築くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたって本人や家族の困っていること悩んでいることを受け止め、納得のいく説明とコミュニケーションを大切に家族との信頼関係を築きながら受け入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や状況を踏まえて、優先順位を把握するとともに、他サービスが必要な場合には今金町や地域包括支援センター等に相談や指導、助言を受けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな環境のなか共に過ごす中で、本人の出来ること出来ないことを見極めながら、食事の準備や洗濯物たたみ等を一緒に行い、昔の歌や昔話、四季の行事などを一緒に楽しんで、沢山の事を学び得る関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況や健康状態を報告するなど、常にコミュニケーションをとり馴染みの関係を築き、家族の方の思いと共感しながら本人の生活を支援しています。誕生会やすえひろ夏まつりへ家族が参加する機会をつくっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、近隣の人の面会や、外出（自宅やご近所、かかりつけ医、病院で会う知人、敬老会に参加）もご本人の希望を大切にしています。友人や家族へ年賀を送っています。	利用者と地域との繋がりを尊重し、友人・知人の訪問受け入れや、電話、手紙、写真掲載の年賀状の支援を行っています。買い物や希望する場所への訪れ、時には家族の協力を頂き、利用者の思いに応えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	落ち着いて話をされているときには側で見守り、時には職員が関わって唄やカルタをしたり話しをするなど、あたたかな雰囲気の中で、利用者同士がよい関係でいられるよう支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族が訪ねてきてくれたりと、お付き合いを続けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人と会話の機会を持ちその人の「姿」を把握し、センター方式を使用して本人の希望や願いを職員全員で共有するように努めている。	職員は、利用者の希望や意向を受け止めようと、生活歴や家族の情報を参考に洞察力を高めています。利用者が、その人らしい生き方や豊かな生活になるよう支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で本人の古い記憶や、家族と馴染みの関係を築きながらこれまでの暮らしぶりを伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日誌、個人記録、伝達簿で申し送りを行い、職員全員が一人ひとりのちょっとした変化の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での本人や家族の「思い」を第一に、現状に合わせた介護計画を作成している。	介護計画は、利用者、家族の意向を尊重し、日々の記録や医療関係者、職員の意見や提案を集約し作成しています。計画の実践は、介護記録に記し、定期見直しや急変時に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診結果や日常の様子、気づき、ケアプランの実施などの情報を記録し、職員間で共有しながらケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の笑顔が続くような支援を心がけている。散歩や外出などはその時の状況に合わせ、通院も必要に応じた支援をしている。食事のメニューも要望があれば対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所のお茶会に招かれたり、地域の方々が民謡・紙芝居・クリスマスなど慰問にきてくれて利用者を楽しませてくれます。消防署の協力をいただき利用者も避難訓練に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を優先し定期的に受診している。他科受診も同様に相談をして行っている。	利用者、家族の意向を傾聴し、状況によっては家族の協力も頂きながら、協力医療機関、かかりつけ医、他科の受診支援を行っています。訪問歯科の受け入れを検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と毎日の健康チェックや利用者の状態、気づきなどの連絡を密に共有し、相談や受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診などで日頃から病院の医師や看護師とは連携が取れており、入退院時には病院の担当者や情報共有を図り、ご家族も安心していただけるようコミュニケーションを図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について率直に家族と相談している。センター方式を活用しながら、本人の尊厳を優先し、家族の思いも共有しながら支援できるようにしている。	ホームとしての重度化や終末期の対応は、利用者や家族の意向に添いながら、ホームとして、出来る最大限の支援に努め、その後は、医療機関への支援としています。看取りに向けての外部研修も、5名の職員が参加しています。	ホームとして「出来ること」、「出来ないこと」を明確にした対応指針や同意書の作成を検討しています。将来的に医療連携体制加算取得も視野に入れた取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て応急処置研修会を実施している。看護職員と急変時の対応策などの情報交換をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と避難訓練を年2回実施している。地域住民も避難訓練に参加協力をいただいている。	消防署の指導の下、地域住民の方々でもある数名の消防団員の見学を頂き、昼夜想定避難訓練を実施しています。職員は、救命救急講習も定期的に参加し、非常時に備えています。	地震や風水害に備えて、避難経路やホームの实情に即した避難場所の確保、災害備蓄品（飲料や食料、防寒着等）に加え、利用者の医療記録、服薬、衛生用品等も用意するなど、さらなる防災対策強化への取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかな言葉かけや、誇りを傷つけることの無いように配慮している。常日頃から尊厳ある対応について職員間で話し合っている。	職員は接遇マナーを理解し、利用者の尊厳を念頭に、利用者への対応を心掛けています。プライバシーを含め、職員間に於いても、お互いに注意を合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好き嫌いや入浴、外出等、その人とコミュニケーションを図り、本人の考えや思いを受け止め、出来るだけ自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアに取り組み、楽しみや希望を取り入れ、楽しいこと嬉しいことを共有しながら、その人らしい暮らしができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴、髭剃りなどは清潔に心掛け、髪型、服装などは季節感も大切にながら支援している。美容師ボランティアもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や食べ易さ、好みの物だったかななどを食後に伺ったりして好みの把握に努めている。もやしやジャガイモの皮むきなど、野菜の準備を手伝ってもらっている。	食事が利用者にとって楽しみ事になるよう、好きな物や食べたいものを把握し、献立を作成しています。食事形態にも配慮し、行事食、時にはホーム前でのおやつや食事で変化を付けるなど、会話を交えながら食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日個々の水分量はチェックし把握している。毎月体重測定をしている。食事の分量、形状や盛り付けにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入れ歯の清掃やうがいなど、個々に合った口腔ケアの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を支援するために、排泄チェック表を使い個々のパターンを把握し、尊厳を守りながら声かけや誘導を心がけている。	利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、さりげない声かけや誘導支援で、殆どの利用者は、トイレで排泄を行っています。衛生用品は、利用者の要望や状態に合わせた物を使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷たい牛乳や温かいコーヒー、ヨーグルトなど飲食物の工夫や、歩行練習などの運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のタイミングに合わせて、ゆったりと入浴できる支援に配慮している。	毎日入浴出来る態勢ですが、午後から週1～2回の入浴支援を行っています。利用者の要望や心身の状態に応じて、シャワー浴や足浴、清拭等を行い、清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は小上がりやソファーで横になる（昼寝）など個々のリズムで休息をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の変化や、薬に変更があった場合には、看護師、職員が情報共有している。飲み忘れや誤薬を防ぐための見守りや介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり作りや洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえのお手伝いなど、個々に合った役割を支援している。カラオケやドライブ、イベント見学なども楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期には外のベンチに出たり散歩が日課となっている。買い物に出かけたり、海や山へバスバイクに出かけている。ご家族と一緒にくだもの狩りに出かけた。	天候や体調に配慮し、外出の機会を逃さず、買い物、散歩、前庭での日光浴、花壇や菜園での作業、車を利用して海や山へのドライブ等、気分転換を図っています。家族参加の果物狩りは大好評で、恒例行事になっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理ができる利用者には本人に持たせている。自分の財布を持って買物に出かけるように支援している。出納帳で確認している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との交流に電話で話したり、手紙を書く支援をしている。家族や友人へ年賀状を出す支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには、季節感のある飾りつけや花を飾ったり、家族との写真を貼るなど、明るい雰囲気づくりを心がけている。音の大きさや光、匂いなどにも配慮し心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間は、清潔や温度、湿度に配慮があります。利用者は、畳敷きの小上がりやソファー、食卓に寛ぎの場所を見つけ、安らいでいます。飾られている季節の花や鉢植えは、訪れる方々が癒やされ、居心地の良さが感じられます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、畳の小上がり、食卓でそれぞれお気に入りの場所で、お話しをしたり歌を歌ったり、洗濯物をたたんだり、お昼寝をしたりと、思い思いに過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、自宅で使っていた好みの家具を持ち込んだり、家族の写真や好きな小物を飾ったりしている。	表札を掲げている居室には、利用者や家族が選んだ馴染みの家具や調度品、趣味の物が配置され、利用者が安心出来る場所になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホールには手摺を設置している。居室には各自の名札をつけたり、「便所」や日めくりカレンダーなど、わかりやすい表示の工夫をしている。			